

### ●景観形成の目標像

周辺景観に配慮し、周辺環境と一体となったデザインを行うとともに、周遊を楽しむ利用者が心地よいと感じる空間を創り出す。

#### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

水辺利用、視点場、視対象としての機能に配慮し、構造体が周辺景観と調和するようシンプルなデザインとし、高欄は安全な高さを確保する。

橋梁の選定色は、歴史的に使われてきた素材や周辺自然景観に見られる「茶色、こげ茶色、灰色」とする。

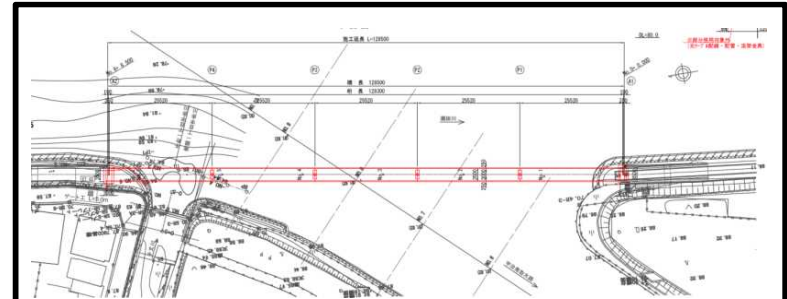
#### ②細部設計、材料等の選定の考え方

周辺景観資源の宇治川発電取水口や周辺のサクラ等の景観に配慮したデザイン。

上下流の散策路との連続性を意識し、同色系の自然色舗装とする。

#### ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

—



事業概要：水辺利用者が瀬田川沿川の文化・交流施設や歴史・観光拠点間を、安全・快適に移動できるようにすることを目的に橋梁を整備



## ●景観形成の目標像

雄大な円山川の眺望景観、山並みを背景とした田園風景の雰囲気<sup>※</sup>を極力損なわない景観形成とする。

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

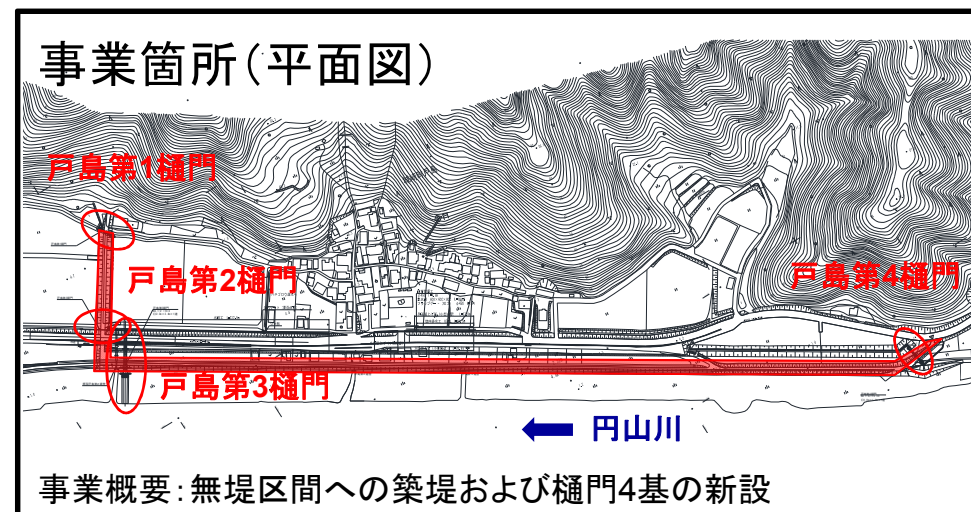
保全範囲を必要最小限に設定することで築堤延長が短縮され、施設規模の縮小によって景観への影響も軽減できる。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

築堤材料は土とし、周辺の自然景観との調和を図る。

### ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

保全範囲を必要最小限に設定することで築堤延長が短縮され、施設規模の縮小によってコスト縮減を図る。



(事業前)



(事業後)



①、③ 上流端より下流向きに撮影



②



### ●当該事業における景観形成の目標像 山間部の自然河川・景観を壊さない空間

- ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
擬石、植生等を行い周囲の自然景観と調和させる。
- ②細部設計、材料等の選定の考え方

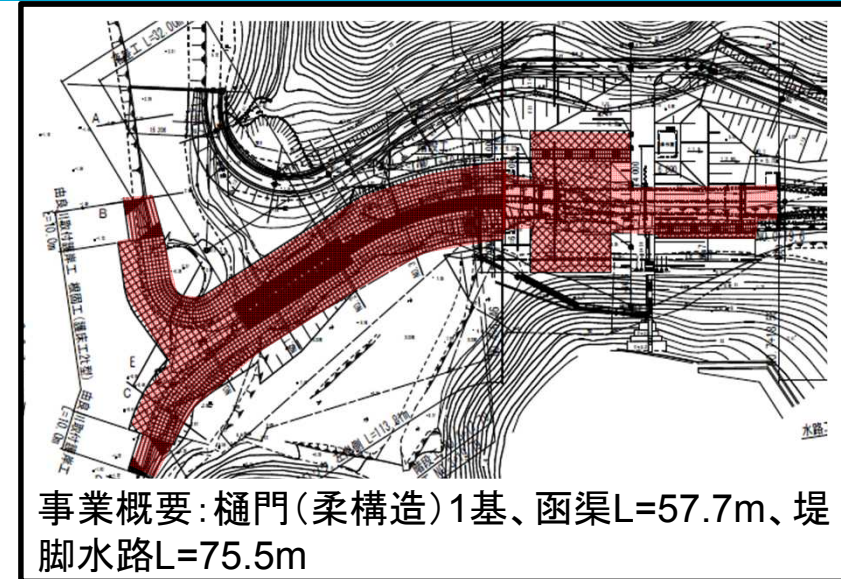
水路部を川表側、落差工部、川裏側の3ブロックに分け、自然環境との調和、経済性等を比較し護岸形式検討を行っている。

○川表側:現況の植生繁茂している環境・景観を維持することができ、比較検討を行い経済性に優れている植生型接続ブロックを採用。

○落差工部:落差工部は跳水や由良川本川との接続部であり多方向の流体力が発生すると予想され、植生が繁茂しやすく現況の植生繁茂している環境・景観を維持することができ、比較検討を行い経済性に優れている擬石張ブロックを採用。

○川裏側:現況の植生繁茂している環境・景観を維持することができ、上野川河道計画5分勾配に対応できる構造とし、比較検討を行い経済性に優れている植生型ブロックを採用。水際に近づけられるよう、樋門操作、ゲート点検時等の管理目的使用と兼ねて階段を設置し、川と堤防の連続性を確保する。

- ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方  
樋門堤体部盛土に発生土及び流用土を利用することでコスト縮減を図り、土砂流出防止に植生をおこない景観に配慮する。



## ●景観形成の目標像

近代土木遺産の保全を行い、既存高欄をそのまま残す。

### ①施設や空間の規模・計上・配置等の設定の考え方

鳥羽大橋の既存高欄はそのまま残す。  
新設される側道橋は、鳥羽大橋の景観と調和を図るようにする。  
街路灯も既存の元と同様なデザインのものとする。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

既存施設をそのまま活用する。  
鳥羽大橋の内側に車両用防護柵を設置する。  
側道橋の高欄については、鳥羽大橋との調和を図る。

### ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

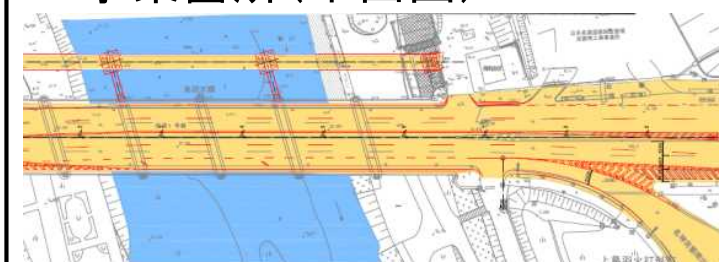
既存高欄をそのまま残す。

(事業前)

(事業後)



## 事業箇所(平面図)



鳥羽大橋拡幅事業: 付加車線を設置することにより合流時の安全性の向上及び交通渋滞の緩和を図り、事故を防止。



## ●景観形成の目標像

防護柵色調の統一を図る区間となる景観的基調のゾーン選定により、一般市街地ゾーンとして整備。

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵の整備マスタープランにより周辺環境と調和した色彩(グレーベージュ)の防護柵を、車両通行からの安全性を確保できる位置に設置する。

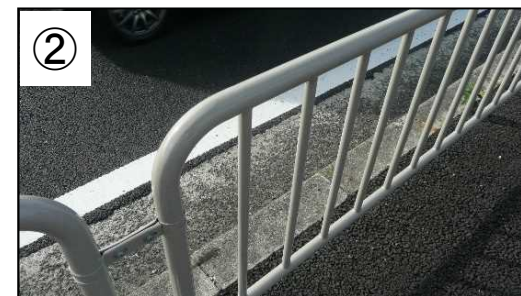
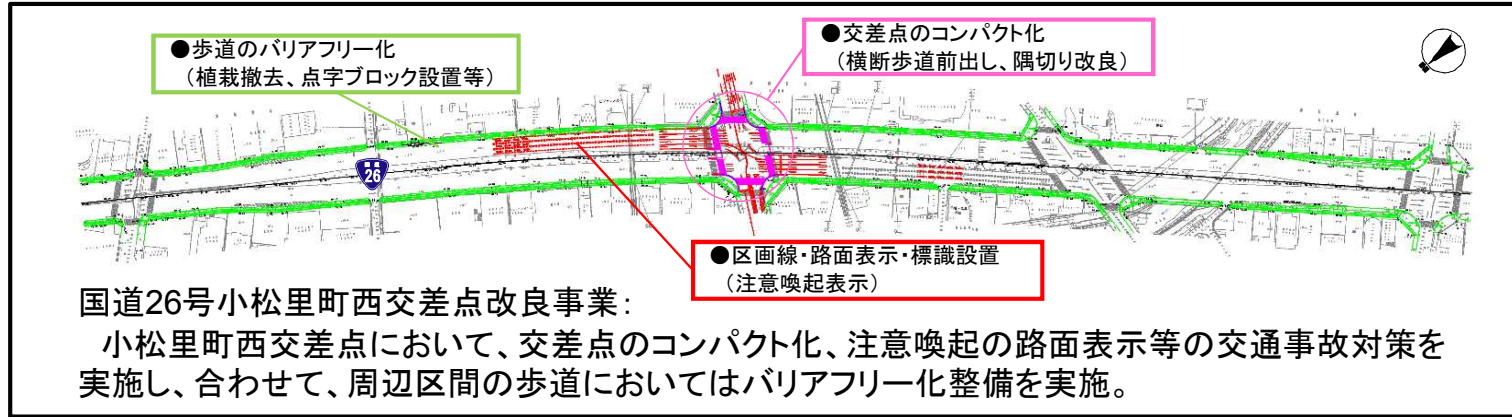
### ②細部設計、材料等の選定の考え方

景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、材質は一般的な素材である鋼製のものを採用する。

### ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、シンプルな形状(標準品)を採用することでコスト縮減を図る。

(事業前)



## ●景観形成の目標像

景観上特に配慮する必要のある地域・地区として整備。(曾根崎通り)

【景観に配慮した防護柵の整備マスタープランによる】

## ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵の整備マスタープランにより周辺環境と調和した色彩(ブルー又は白)の防護柵を、車両通行からの安全性を確保できる位置に設置する。

## ②細部設計、材料等の選定の考え方

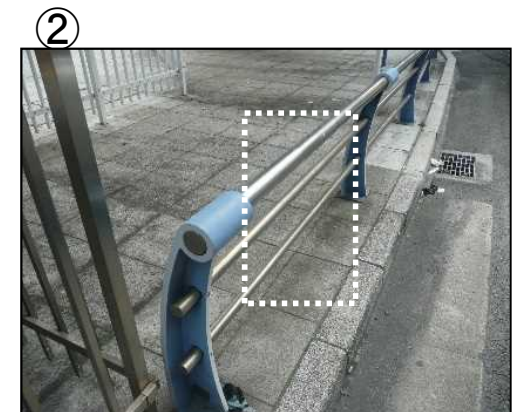
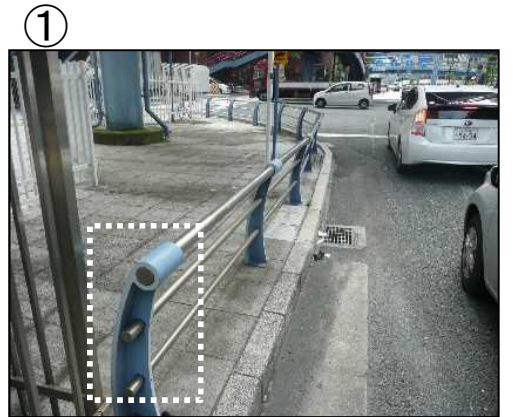
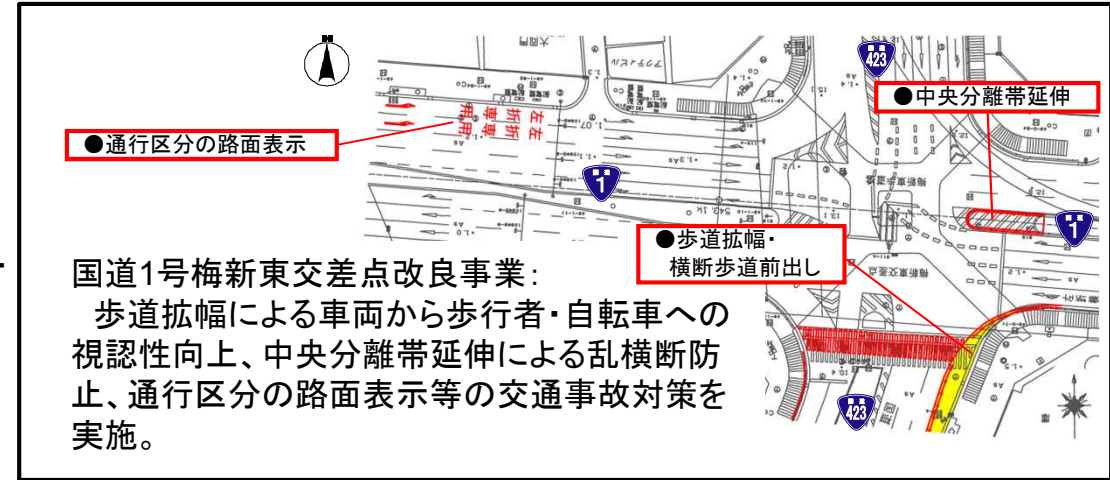
景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、材質は一般的な素材である鋼製のものをを用いる。

## ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

—

(事業後)

(事業前)



## ●景観形成の目標像

景観上特に配慮する必要のある地域・地区として整備。(フェニックス通り)  
【景観に配慮した防護柵の整備マスタープランによる】

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵の整備マスタープランにより周辺環境と調和した色彩(ダークブラウン)の防護柵を、車両通行からの安全性を確保できる位置に設置する。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

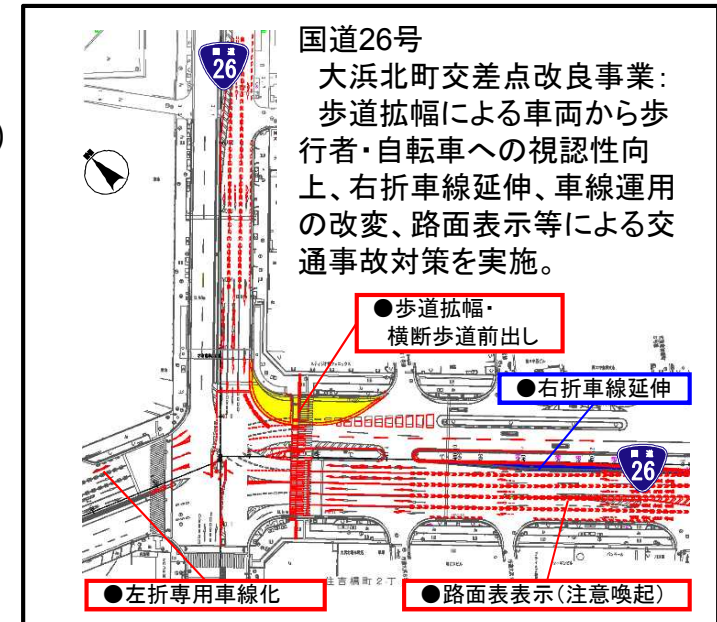
景観に配慮した防護柵の整備マスタープランにより、材質は一般的な素材である鋼製のものをを用いる。

### ③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

(事業前)



(事業後)



## ● 景観形成の目標像

安志地区歩道整備は、山間平野ゾーン(田園・集落地)を通る道路で、周辺の景観を考慮した歩道整備をおこなう。

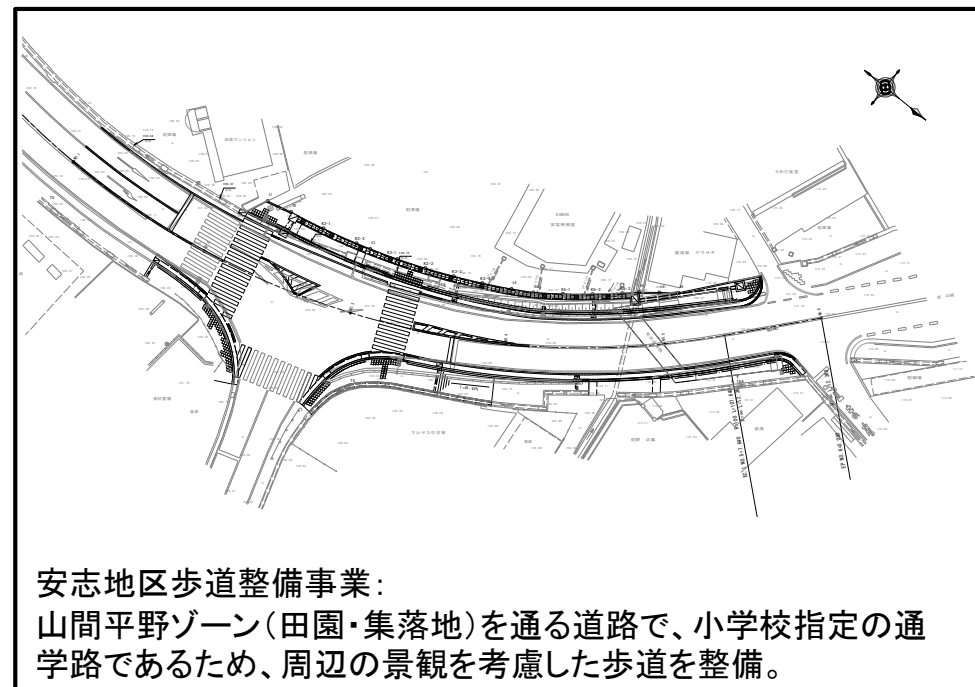
### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵(ガードパイプ)を景観に配慮したグレーベージュ(薄灰茶色)とする。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵(ガードパイプ)を景観に配慮したグレーベージュ(薄灰茶色)とする。

### ③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方



安志地区歩道整備事業：  
山間平野ゾーン(田園・集落地)を通る道路で、小学校指定の通学路であるため、周辺の景観を考慮した歩道を整備。

(事業後)

(事業前)



① ②





## ● 景観形成の目標像

一般国道43号の五号橋交差点に架かる五号橋歩道橋にバリアフリー対応のエレベータを南北2箇所にて設け、それに伴いスロープ・階段の位置をずらして部分更新をする歩道橋改良とる歩道改修整備

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

既往構造物(横断歩道橋)と整合をとり、エレベータ等は周辺建築物と整合を図った。

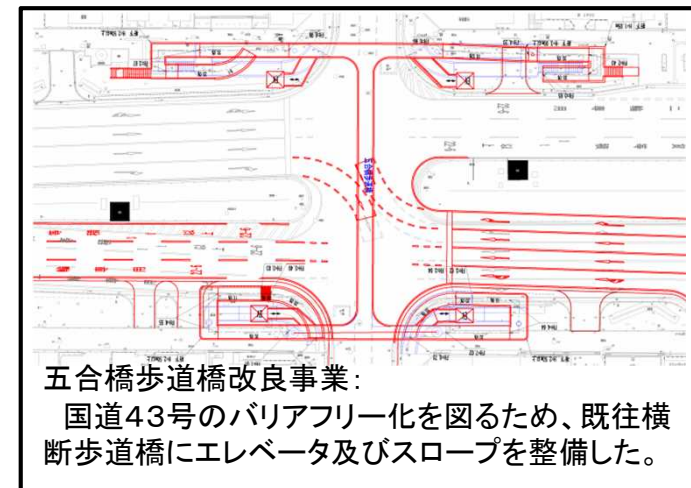
### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

### ③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

(事業前)



(事業後)



五合橋歩道橋改良事業：  
国道43号のバリアフリー化を図るため、既往横断歩道橋にエレベータ及びスロープを整備した。



① 横断歩道橋スロープの色彩は既設横断歩道橋と整合を図りベージュ、エレベータ棟の色彩は近接する高架橋橋桁と整合を図りグレーで整備



① 歩道橋本体に設置されている防音パネルは近接する高架橋橋桁と整合を図りグレーで整備